

平成 24 年度第 2 回泉区地域福祉保健推進協議会 議事録

平成 25 年 1 月 24 日に開催された、第 2 回泉区地域福祉保健推進協議会(以下、「協議会」という。)の概要について報告します。

I 開催状況

- 1 開催日時 平成 25 年 1 月 24 日 (木) 午前 10 時から 12 時まで
- 2 会場 泉区役所 4 階 4 ABC 会議室
- 3 出席者 計 49 人 (出席状況は出席簿参照)
(内訳)

協議会委員	31 人	(福祉保健センター長含む)
地域ケアプラザ	4 人	
泉区社会福祉協議会	3 人	
泉区役所	6 人	(福祉保健課長含む)
事務局	5 人	(係長 1、担当 4)

II 内容

- 1 開会あいさつ 泉区福祉保健センター長

事務局から以後の会議の議事進行を村井委員(田園調布学園大学教授)にお願いすることを提案し、了承される。

2 報告・連絡事項

- (1) 泉区地域包括支援センターの公正・中立性の確保について(説明 高齢支援課長)
 - ・[資料 1]に基づき説明
- (2) 地域課題解決のための将来人口等推計について(説明 泉区長)
 - ・[資料 2]に基づき説明
 - ・連合単位で将来人口の推計を行い、地域の特徴が見えてきた
 - ・高齢者人口はゆっくりと増加する中、支援の必要な世代が劇的に増加する。さらにその多くは自宅で生活をしていくため、地域でどう支えるかが課題である
- (3) 第 2 期泉区地域福祉保健計画 区計画の中間振り返りについて(説明 福祉保健課長)
 - ・[資料 3]に基づき説明
 - ・区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザの 3 者で実施し、3 月に完成予定である
- (4) 第 2 期泉区地域福祉保健計画 12 地区別計画の振り返りについて
 - ・[資料 4]に基づき説明

◎緑園地区委員より、緑園地区の上半期(22~24 年度)の振り返りの報告

緑園地区は区の中でも新しい町、他地区から人が集まっており交流は工夫をしている。上半期は、こどもから大人までの多世代を対象とした常設の居場所づくりのための検討会、RSC(緑園スポーツ・文化クラブ)による健康づくりの活動を行った。活動を通して、地域福祉保健計画は地域諸団体との連携が大きな推進力になると感じた。25 年度は障がい

者への活動を行いたい。

(5) 泉区地域福祉保健推進協議会主催事業 第2期泉区地域福祉保健計画推進イベントについて

- ・[資料5]に基づき説明 (説明 福祉保健課 事業企画担当)
- ・第1回の意見交換でいただいた意見を基に、事務局でイベントの対象者や周知方法について検討を行った。広報については、ちらしを席上配布させていただいたので、回覧や掲示版での周知をお願いしたい。また、訪問看護ステーションの参加により、横浜いずみ台病院のHPに掲載していただいた。イベントが地域の中に広がったと感じている。展示物の搬入等のスケジュールは後日案内する。

◎泉区生活衛生協議会委員

趣旨に賛同して協力することになった。生活密着、福祉に関係した展示を行なう。平日で女性が多いだろうという想定で企画を行なった。区内106会員の店にポスターを掲示してPRを行ない、当日はプレゼントを用意する。

◎中川地区委員

永明寺別院サロンはこどもから高齢者、岡津小の個別支援級や6年生の児童、障害者作業所の利用者といろいろな人が集まる活動をしているのでその活動を紹介をしたい。

○進 行

いろいろな団体の参加がある。ネットワークを活かして、チラシでロコミをしてほしい。

3 意見交換

テーマ「障がい分野に関連した地域密着活動の実施に向けて」

○進 行

障がい分野に取り組むときに、何ができるかのきっかけとしたい。今まで取り組むきっかけが少なかったと思う。地域の力を施設が活用する、そして地域が交流を考える機会となるとよい。お互い声がかかったら積極的に支援してほしい。

- ・[資料6-2]に基づき説明、泉区の特徴として、手帳の保持者の人口割合は平均的である。施設は全市の1割弱と、人口割合としては集中している。

(1) 障がいの説明

ア 身体障がい

◎泉地域活動ホームかがやき委員

- ・かがやきは10年目となった。全区に1館をつくる計画で、今年で全区になる。障害のある人と家族を支える拠点である。泉区内約100施設との連携役である。
- ・身体障がいには、先天障がいや後天障がいがある。さらに心身の機能障がいや社会的障がい(偏見や建物の段差)という分類の仕方もある。障がい種別としては肢体不自由、音声・言語機能、視覚、聴覚・平衡機能の障がい、そして見えにくい障がいとして内部障がいがある。
- ・資料の訂正…ADHD, LD, 自閉症・アスペルガー症候群は、現在は発達障害と言われている

イ 知的障がい

◎泉区障がい福祉支援協議会委員

- ・ぴぐれっとの施設長であり、ぴぐれっとは地域から作業所が生まれた。今回は、IHネットの代表として参加している。
- ・障がいには法律上の定義があるが、知的障害は定義されていない。18歳未満で遅滞が生

じ、それにより適応が困難な状態である。生まれつき計算やコミュニケーションが不都合であり、後天的なものは含まれない。98年から知的障害と言われ、それまでは精神薄弱・精神遅滞と言われていた。

- ・愛の手帳保持者は1,125人（泉区）市では平均的。電車内などで増えた印象あるかもしれないが、泉区に施設が集中していることが理由としてあげられる。65歳以上の人は制度ができたのが40年前のため、手帳を持っていない人もいる。

ウ 精神障がい

◎泉区生活支援センター 芽生え委員

- ・生活支援センターは精神障がい者の相談機関である
- ・精神障がいの主な慢性疾患である統合失調症について説明する。日本では76万人が罹患している脳の神経の病気である。ストレスがキーワードで、治療は完治ではなく、完解という。薬物療法が基本であるが、本人の病識がないのがこの病気の特徴なので、まわりのサポートが必要である。生活するには社会資源の活用が大切で、活用を進めるためには地域の理解が大切である。

(2) 意見交換

◎委員

障害者施設と交流していきたい。今まで歌を歌うことは好評であった。クリスマスと一緒に飾りを作ることを企画したが、本人へどう対応してよいか分からなかった。知的障がい者は身体障がい者と違いとまどうことがある。活動のヒントを教えてほしい。

◎泉区障がい福祉支援協議会委員

重複障害の人もいる。コミュニケーションの場面には、環境になじめないということが強く表れる。びぐれっとでは、新橋地区の人が何度も繰り返して顔を出してくれ、職員もまつりの前に利用者と何度も会場に行き慣れるようにした。「今回だめなら、またね」と思ってもらいたい。

◎泉地域活動ホームかがやき委員

まつり好き、歌って踊る、水が好きということが傾向としてある

○進行

緑園での取組を紹介してもらった。新しいことはなじみにくいが、顔なじみになり、繰り返し巻き込んで他の人よりゆっくり進めればよい。発達はゆっくりでも止まっていない、成長しているということを知ることが大切である。

◎委員

地福で災害の問題に取り組んでおり、要援護者の把握は進んだ。障がいのある人への支援の留意点を教えてほしい。

◎委員

下和泉地区は高齢者の施設がたくさんある。防災訓練を高齢者グループホームと一緒に実施した。ひとり一人の絆が大切である。

○進行

定例化すること、こちらからグループホームに行くなどによる顔の見える関係が大切である。

◎委員

- ・新橋地区とびぐれっとの関係についてご紹介したい。びぐれっとまつりは7月にある。新橋地区の人はボランティアとして参加を楽しんでいる。連合自治会館が会場のため、

ぴぐれっとの利用者も慣れ、地域の人もいつもの活動場所なのでなじみがある。

- ・子育てサロンで人形劇をすきっぷの協力で企画している。ぴぐれっとにも参加してもらった。はじめは大きい声をだしていて心配だったが、気に入ったところで拍手をするなど楽しんでくれた。親子とも自然に交流できた。毎年、声をかけたいと思う。

○進 行

日常のきっかけづくりが大切である。災害時の障がい者の把握で対応をしているところはあるか。

◎泉地域活動ホームかがやき委員

かがやきは中学校から福祉教育で講演会に呼ばれている。利用者と共に行き、直接生徒と触れ合った。脳性まひの障がいがある人は話を上手く伝えられない、自閉症の人が体育館でピョンピョン跳ねていた。でも、このような人が生活しているということは伝わる。

◎泉区障がい福祉支援協議会委員

- ・泉区障がい福祉支援協議会の活動では、災害時における施設の対策・対応に取り組んでいる。発生時の障がい者の支援、ボランティアコーディネート、障がい児者支援センターの立ち上げコーディネートの準備をしている。
- ・ぴぐれっとは市外からの利用者もいる。東日本大震災の情報でも行政から情報は下りて来ないため、施設自ら情報を得て動きたい。地域の人にこう協力してほしいと声をかけられるようにしたい。
- ・下和泉地区のように訓練を通して地域に障がい者がいると知ってもらえると良い
- ・新橋地区は避難訓練、まつりと 20 年来のつながりがある。それは地域の団結力であり、災害時の力となる。

◎委 員

- ・災ボラ連絡会では、障がい者への対応について専門的にしたいと支援班を作った。今後、一緒にシミュレーションをやっていきたいと考えている。
- ・私の住んでいる自治会では、災害時要援護者登録で障がい者が手をあげてもらったが、手をあげた人以外にもっといえると思う。地元で声がかかったら手をあげるよう、施設からも声をかけてほしい。
- ・泉区ボランティアネットワークの障がい者支援部会は、障がい者支援ボランティア団体が加入しているが、支援の必要な人がどこにいるのかつかめないことが悩みである。団体も知られていない。

○進 行

支援する人、支援してほしい人のつながりづくり。顔の見える関係になるとつながりができるだろう。つながっている地区は教えてほしい。

◎委 員

ケアプラザでは、個別支援級の放課後支援や休日イベントを行っている。今後も区内ケアプラザでは、居場所づくりや保護者のケアプラザを活用したいという声を受けて取り組んでいきたい。

○進 行

地域密着のケアプラザは、コーディネートの役割があるだろう。

◎委 員

富士見が丘地区は障害者地域活動ホームいずみ会館と一緒に空き缶を集めることを町内会ぐるみで協力している。はじめ、空き缶を会館に持っていくことは続かなかったが、その後、いずみ会館がリアカーで町内会に集めにきてもらう工夫で続いている。いずみ会館の収入と利用者の工賃になるので、みんなの楽しみになっている。それも地域の協力にな

と思う。

○進 行

清掃、工賃、自治会活動が繋がりになる。ぜひ、活動の継続をしてほしい。

障がいのある人への支援の留意点への質問の意見を聞かせてほしい。

◎泉区生活支援センター 芽生え委員

- ・精神障がい者や家族は病気・障がいを知られたくないと考えて外出しない、言わないことが多い。災害時は、体は元気でも避難所を知らずに、家に引きこもっている場合もある。
- ・発信をするときに精神障がい者がいることを前提にしてほしい。言っても分からないではなく、一方的でも呼びかけを続けてほしい。いつかは届く。その時に知識を深めたいことがあれば協力する。

◎委 員

発達障がい児の母の声を伝えたい。子どもは嫌なことを強要すると泣いてしまうため、母は虐待と周囲から思われていないか気にしてしまい叱れないという声がある。周囲の温かい声が救われる、という母の声があるのでよろしくお願ひしたい

(3) まとめ

◎村井委員

- ・障がい分野のテーマについては、これからも継続して話していきたい
- ・キーワードは日常生活に障がいのある人を積極的に巻き込むこと。それがつながりとなり、安心となる。
- ・施設も地域との連携の話合いが進むと、今後は協力依頼することが出てくるだろう
- ・既存のイベントに障がいのある人に参加してもらうことがポイントである
- ・具体的な連携・コーディネートの場合づくりをこの場でしていきたい
- ・今回は結論は出ないが、引き続き、多機関の協働や障がい者を巻き込むような場づくりの話合いを進めていきたい

4 その他

(1) 関係機関情報の更新について

- ・[資料7]に基づき説明
- ・更新情報がありましたら、添付の用紙でお知らせいただきたい

(2) 泉区地域福祉保健計画 普及啓発グッズの案内

- ・見本は席上配布、地域福祉保健計画のPRの際にご活用していただきたい。活用時は福祉保健課あて連絡いただきたい。